

ちば里山カレッジ「里山ボランティア養成コース」実施報告書（6）

特定非営利活動法人ちば里山センター

題 名	ちば里山カレッジ「里山ボランティア養成コース」 第 6 回講義&フィールド研修 「千葉県の森林と里山活動」
日 時	平成 27 年 9 月 19 日（土） 8：30～17：10
講 師	講 義： 千葉県農林総合研究センター森林研究所 主席研究員 福島 成樹 10：00～12：00 講義 1 千葉県の森林と里山の特徴 里山の管理技術（広葉樹林の管理） 13：00～14：30 講義 2 里山の管理技術（人工林の管理） 里山の管理技術（竹林の管理） 15：00～16：30 フィールド研修 「千葉県農林総合研究センター森林研究所の森林に学ぶ」
会 場	講義 さんぶの森交流センターあららぎ館（山武市） フィールド研修 千葉県農林総合研究センター森林研究所
出席者	受講生 42 名（欠席 8 名）・主催者 2 名・スタッフ 1 名
報 告	8：30 千葉 N T T 前出発 9：30～9：50 （特別）あららぎ館バイオマス体験棟 小高 文子 あららぎ館では、担当者からサンプスギの森林資源の有効利用を図るため、木材利用から最近のバイオマス利用の取り組み展示、木質バイオマスプラスチック製品が紹介された。 10：00～12：00 講義 1 千葉県の森林と里山の特徴、里山の管理技術（広葉樹林の管理） 12：00～13：00 （昼食休憩） 13：00～14：30 講義 2 里山の管理技術（人工林の管理）、里山の管理技術（竹林の管理） 15：00～16：30 フィールド研修 「千葉県農林総合研究センター森林研究所の森林に学ぶ」 17：10 森林研究所からバス移動 千葉 N T T 前にて解散 千葉県の里山を、針葉樹を中心とする人工林、広葉樹、竹林に大別して現状と管理方法を解説した。里山が放置された結果、竹林が勢いを増し、針葉樹や広葉樹を脅かしている。昭和 30 年代まで農業生産と里山は密接に結びついていた。宅地化や農業生産の方法の変化とともに、放置される里山が多くなり、里山整備の維持管理活動が注目されている。 千葉県の人工林の多くを占めるスギ、ヒノキ、マツは木材生産を目的に維持管理されてきたが木材価格の低迷により管理されない人工林が増加した。スギは、どの地域でも非赤枯性溝腐病の被害を受け、県北部では被害率 25%以上の林分が 90%を占める。里山活動では人工林の特徴を生かした活用が求められる。 広葉樹林では木材を利用した生産物や景観林としての利用など、目的にあわせた目標林型に沿って里山整備を進めることが肝要である。 竹林は拡大を放置したことにより生物多様性保全機能の低下が懸念されており、拡大防止技術の開発が求められている。森林研究所内の試験地で技術開発が進められている。 森林研究所内ではサンプスギ、ヒノキ、コナラ、クヌギのほか、竹林の皆伐実験、花粉の少ないヒノキの生育実験の様子を見学した。

添付資料（写真）



特別講義「バイオマス」



福島講師



人工林と天然林の違いは？



森林研究所内を見学



サンプスギ危機的状况に



非赤枯性溝腐病



サンプスギの縦列植栽



溝腐病は枯れ枝から



ヒノキの精英樹



高さもまちまちサンプスギ



クヌギ、コナラの萌芽更新



サクラの品種も豊富に



竹林皆伐後の調査



花粉の少ないヒノキの育成



総括質疑